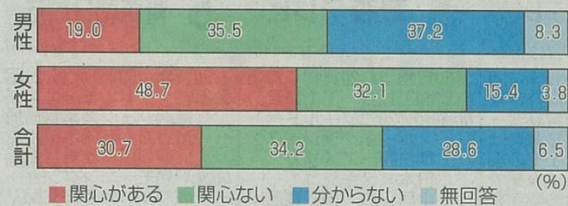


青森県内高校生の福祉・介護の仕事の関心度



対象は高校1年生393人で、199人から回答を得た。回答率は50.6%。福祉や介護の仕事について、「関心がある」としたのは30.7%。「関心がない」のは34.2%、「分からない」は34.2%、「分からない」28.6%だった。

将来の仕事としては、「希望している」11.1%、「希望していない」66.3%、「分からない」16.1%だった。

男女別で見ると、「関心がある」は男性19.0%、女性48.7%。「希望している」が男性5.0%、女性20.5%となっていた。

青森県内高校生

介護職に「関心」3割

八学短大「体験機会提供したい」調査

介護の人材不足が課題となる中、青森県内の高校生の3割が、福祉や介護の仕事に関心を寄せていることが、八戸学院大短期大学部介護福祉学科が本年度実施した意識調査で分かった。「関心ない」よりも「関心がある」の割合は低かったものの、赤羽卓朗学科長は「予想以上に介護職への関心があった。中学生といった早い段階から体験の機会を提供するなど進路につなげた」と話した。

（工藤洋平）

福祉や介護の仕事を見「体験した」の有無の問いでは、「ある」42.2%、「ない」56.8%。「ある」の具体的な内容（複数回答）を見ると、「職場体験、インターンシップ」が43人、

「ボランティア」14人で、「家族や親族の介護」が3人だった。福祉や介護の仕事の印象について、9割が「やりがいのある仕事だと思つ」、6割が「社会的評価が高い仕事だと思つ」と認識。

一方、7割が「身体的、精神的負担度が高いと思つ」、4割が「勤務条件がよい仕事だと思わない」と回答し、マイナスイメージが根強いことが分かった。調査を担当した介護福祉学科2年の延足愛莉さん（20）は「以前と比べ、待遇や介護現場の環境は改善されている部分もある。実際に体験して現場を知つてほしい」と話した。